

らくなる。並行している作業用歩道を使って登っていくと、二俣から10分程の所で水も濁れてしまう。私たちはここで遡行終了とし、作業用歩道を出合まで戻る。 (記・)

[タイム] 出合(12:00)→二俣(12:20, 12:30)→遡行終了(12:40)

沢藪沢(仮称)右俣

1990年10月14日

I

林道脇に車を止め、沢に入る。和泉さん達のパーティと二俣まで一緒である。平坦な地形で、樹林の中、沢は曲がりくねり流れている。所々ナメ状になっているものの、何もなさそうである。踏跡が所々横断しているが、山仕事の道らしい。

二俣で和泉さん達と別れ、私たちは右俣へ進む。すぐヤブがかぶってきて、沢も1m程の堀になってしまい、遡行終了とする。

(記・)

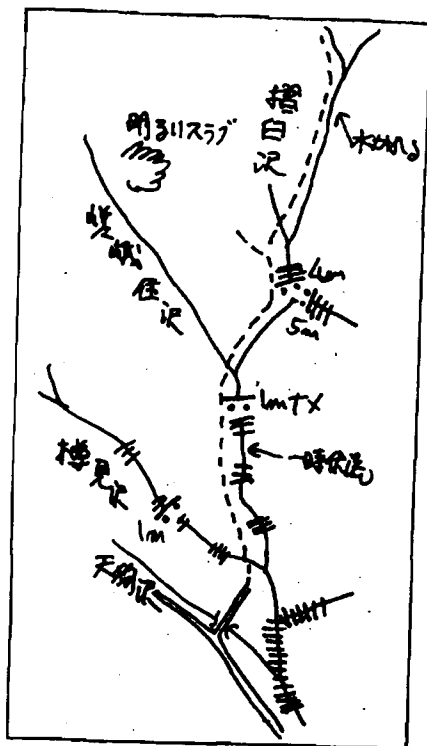
[タイム] 出合(12:00)→二俣(12:20, 12:30)→遡行終了(12:40)

摺白沢 I

1990年9月23日

I

8:10天狗沢との出合から遡行開始。沢幅はせまいが、出合からナメが断続している。10分程で樽見沢出合。樽見沢は小さな沢で、出合はともすると見落としてしまいそうである。このあと壺崎住沢出合まで更に10分。滝はなく、ナメがあるだけ。しかも一部伏流となる



場所もある。嵯峨住沢出合直前になって、ようやく1mの小滝が出てきた。嵯峨住沢出合を過ぎると、沢はぐっと貧弱になる。滝もないまま終わるかと思ったら、突然4mの滝。水量がないので、素にシャワーで直登するが、全体に平凡な中で一つのアクセントとなってくれた。

滝の上はもう完全に源頭の装い。やがて水も涸れる。どこで終了にしようかと迷ったが、結局次の二俣まで遡行して終了とした。(記)

[タイム] 出合(8:10)→樽見沢出合(8:20)→嵯峨住沢出合(8:30)→遡行終了(8:50)

嵯峨住沢

1990年9月23日

L

摺白沢の遡行終了後、沢ぞいにつけられた踏跡を利用して嵯峨住沢出合まで戻る。9:05いよいよ嵯峨住沢の遡行開始。この沢は出合から全く平凡。滝がないだけでなく、ナメも出てこないままで、沢の規模だけがどんどん小さくなってゆく。20分遡ると、沢はもう細いミゾにすぎなくなってしまった。遡行終了9:25。

(記)

[タイム] 出合(9:05)→遡行終了(9:25)

樽見沢

1990年9月23日

L

9:50遡行開始。樽見沢は出合こそ貧弱だが、ちょっと入ると沢幅が広がる。しかし、沢そのものは平凡である。出てくるのはナメが3カ所。うち1カ所は1mの小滝を間にはさんでいる。そのほかは特に特徴のあるものもないままに源頭に達してしまっただ。10:10二俣に出た所で遡行終了とする。(記)

[タイム] 出合(9:50)→遡行終了(10:10)

天狗沢

1990年9月23日

L

天狗沢ぞいでは、現在伐操作業が遡行している。その伐操作

